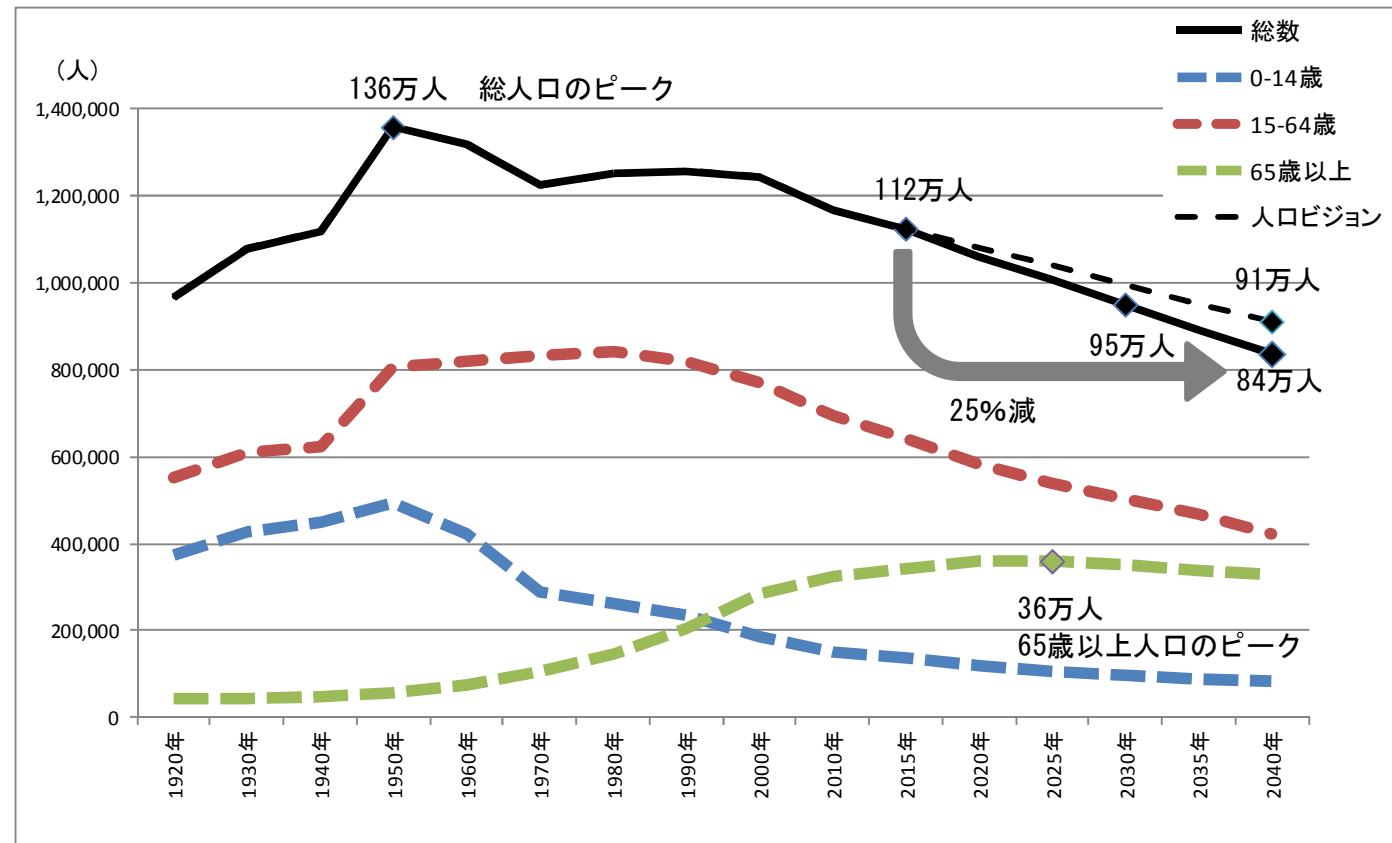


# 中長期的な社会環境の変化の見通し

## 1 本県人口の推移

○本格的な人口減少時代の到来(山形県)

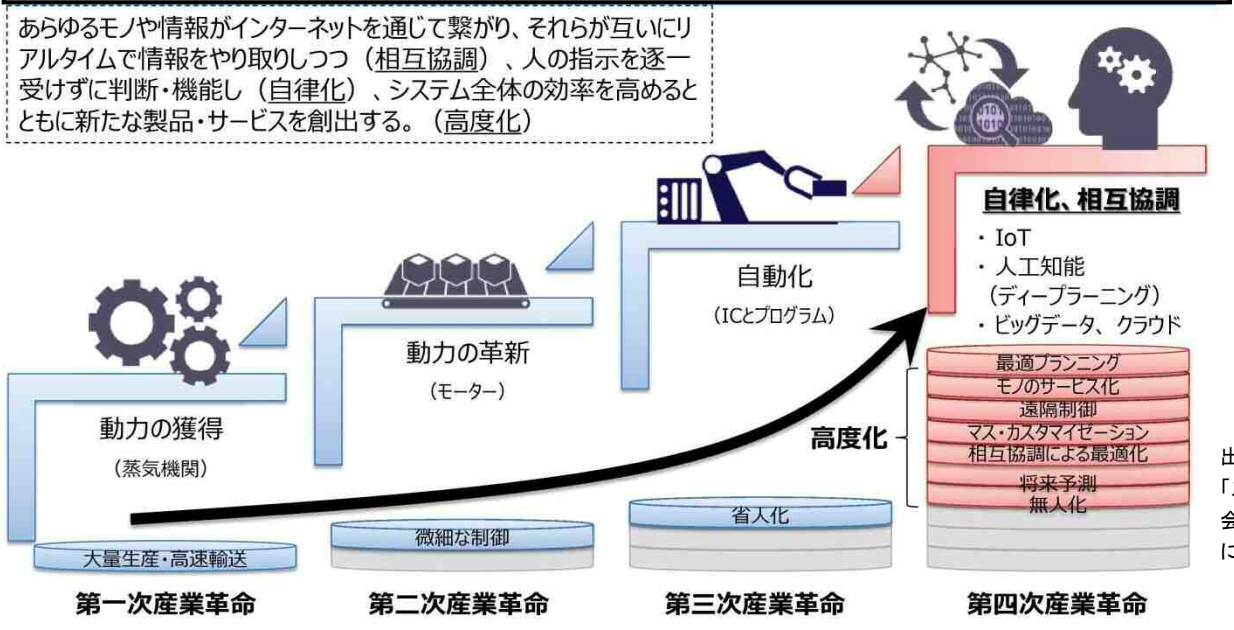


◇本県人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2040年には、84万人まで減少する見込み。  
 ◇高齢者(65歳以上)の人口のピークは2025年だが、以降も高齢化率は上昇を続け、2040年時点で4割程度となる見込み。  
 ◇生産年齢(15~64歳)の人口は、1980年代から、一貫して減少している。

出所:総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(平成25年3月推計)

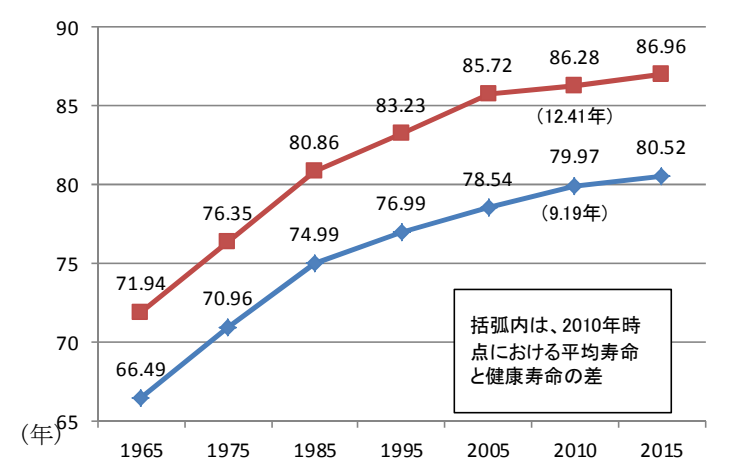
## 2 第4次産業革命の進展

◇IoTやビッグデータ、人工知能をはじめとしたデータ利活用に関連した技術革新は、「第4次産業革命」とも呼ばれ、動力の獲得、革新、自動化に次ぐ新たな産業構造の変革の契機として、社会経済に大きな影響を与えるものと予想されている。



## 3 長寿命化、世帯規模の縮小、若者の流出

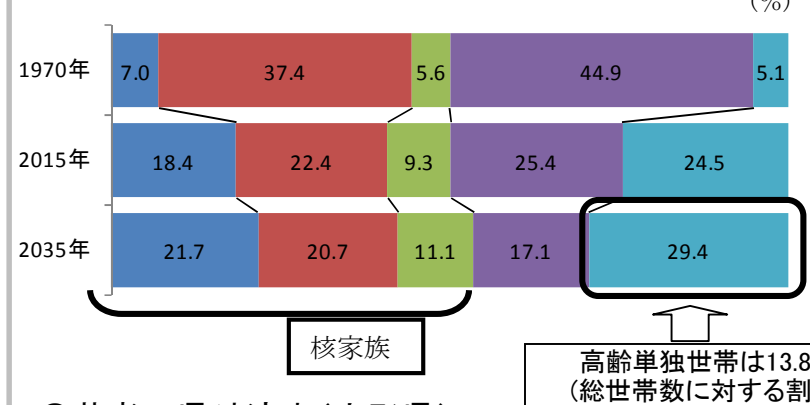
○平均寿命の変化(山形県)



◇本県において、平均寿命は、50年間で15年程伸長しており、男性の平均寿命は2015年に初めて80歳を超えた。  
 ◇2010年時点で、本県の健康寿命の平均は男性70.78年(全国15位)、女性73.87年(全国20位)である。

出所:厚生労働省「都道府県別生命表」、厚生労働科学研究費補助金「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究」

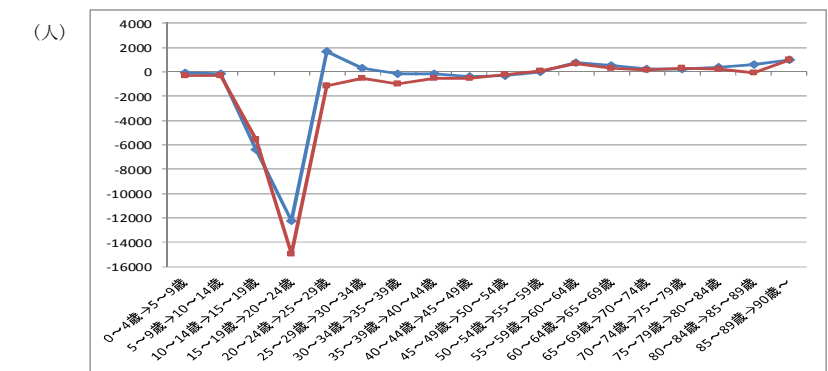
○世帯規模の変化(山形県)



◇この40年余りで単身世帯の割合は約5倍に増え、2035年頃には、核家族と単身世帯を合わせた世帯の割合は8割を超えると推測される。

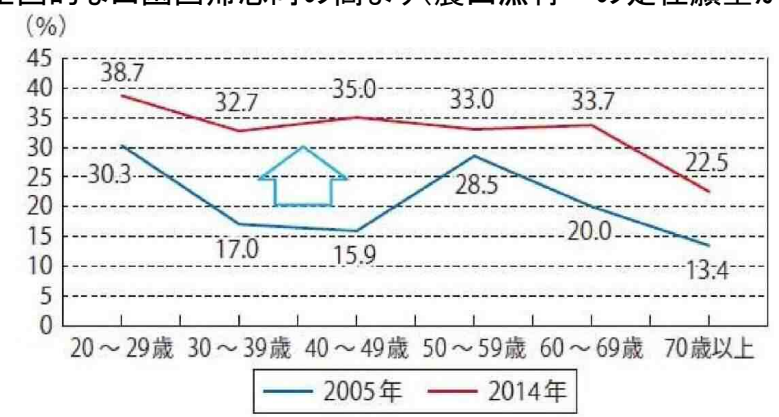
出所:総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(都道府県別推計)」(平成26年4月推計)

○若者の県外流出(山形県)



◇高校や大学を卒業する年齢での転出超過が際立っている。

○全国的な田園回帰志向の高まり(農山漁村への定住願望がある・どちらかといえばある)

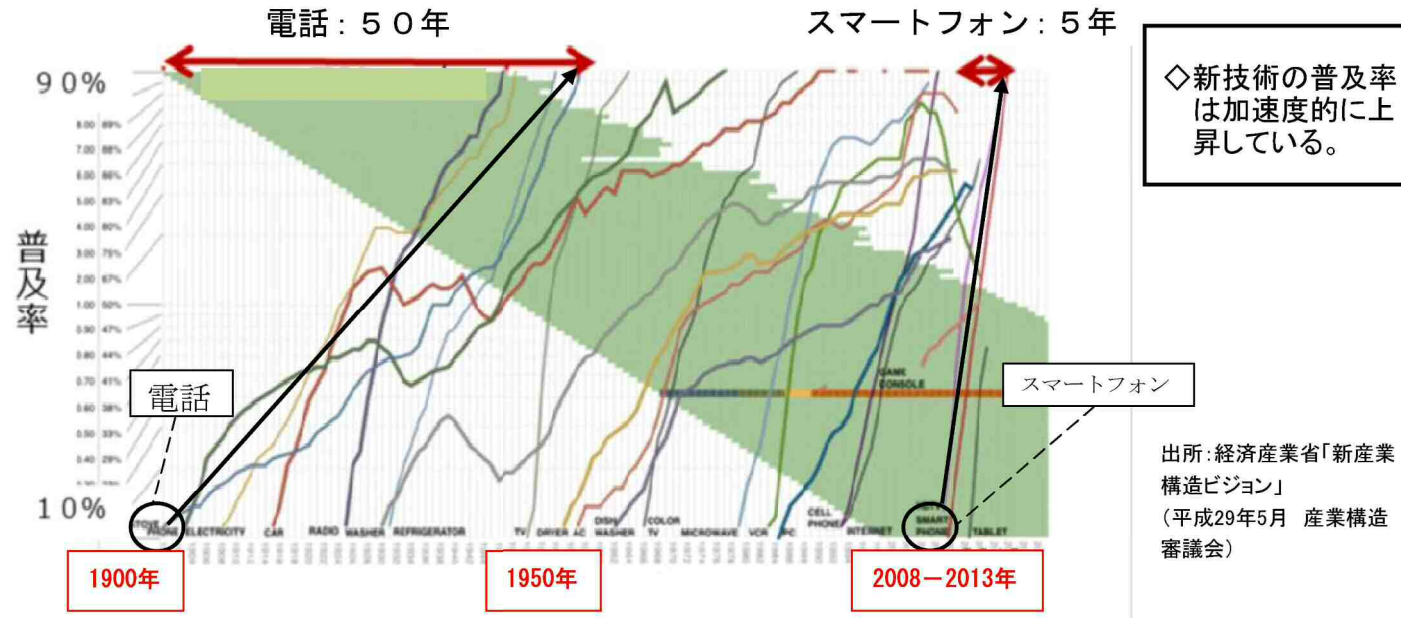


◇都市住民の田園回帰志向は全年齢層で上昇しており、特に若年層において顕著である。

出所:総務省「これからの移住・交流施策のあり方に関する検討会(第2回)」  
 元データ:内閣府「都市と農山漁村の強制・対流に関する世論調査(2005年11月)」、「農山漁村に関する世論調査(2014年6月)」

## 4 技術の急速な普及

○新技術の普及率が90%になるまでに要した期間(米国の例)



## 5 貿易、インバウンド

○日本のEPA・FTAの状況

EPA(経済連携協定)、FTA(自由貿易協定) (2017年12月現在)



| 年    | 2002 | 05 | 06 | 07 | 08 | 09 | 11 | 12 | 15 | 16 | 17 |
|------|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 発効件数 | 1    | 1  | 1  | 2  | 4  | 2  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  |

●発効済・署名済▶16  
シンガポール、メキシコ、マレーシア、チリ、タイ、インドネシア、ブルネイ、ASEAN全体、フィリピン、スイス、ベトナム、インド、ペルー、オーストラリア、モンゴル、TPP(署名済) ※TPPは、EPA(経済連携協定)の一種

●交渉妥結/実質合意▶2  
日EU・EPA(交渉妥結)、日ASEAN・EPAの投資サービス交渉(実質合意)

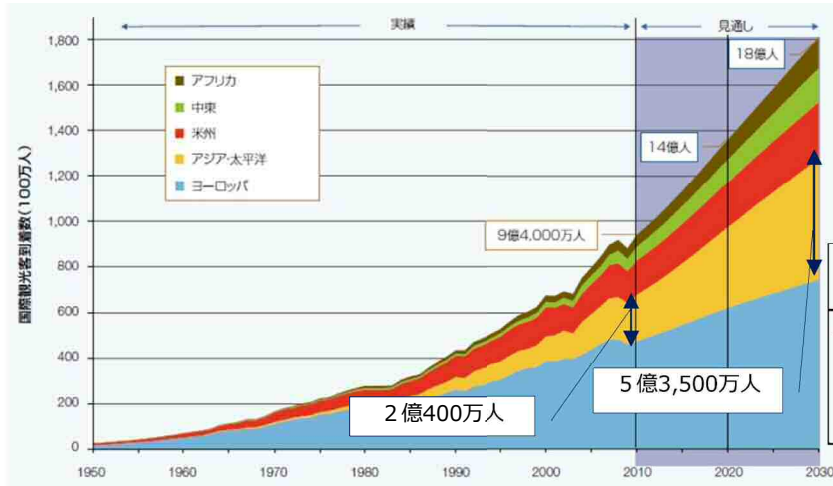
●交渉中▶4  
(交渉完了・未署名含む) コロンビア(交渉中)、日中韓(交渉中)、RCEP(交渉中)、トルコ(交渉中)

○その他(交渉延期中または中断中)  
GCC、韓国、カナダ

出所：外務省HPより

◇協定締結の国・地域数は増加しており、貿易、サービス、投資などの自由化が進み、市場が拡大していく。

○国際観光客の拡大



◇アジア・太平洋地域の伸び率は、全世界の伸び率を大きく上回る増加が予測されている。

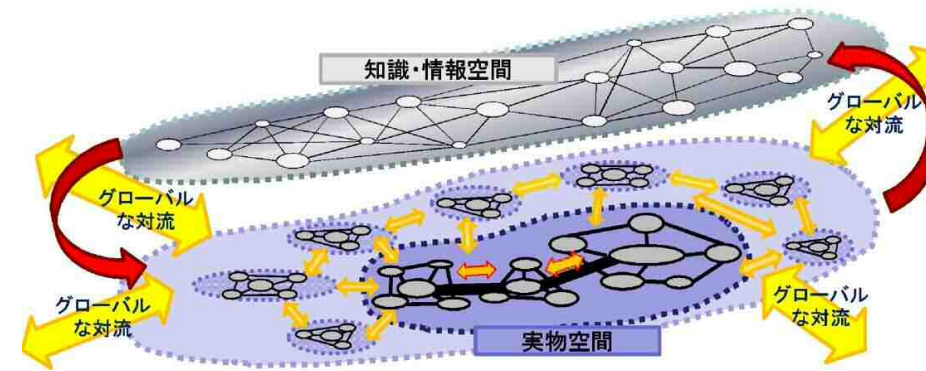
| 地域                 | 2010<br>(実績) | 2030<br>(推定) | 2010→2030<br>年間平均成長率 |
|--------------------|--------------|--------------|----------------------|
| 世界全体               | 940          | 1,809        | 3.3%                 |
| うちアジア・太平洋<br>(シェア) | 204<br>(22%) | 535<br>(30%) | 4.9%                 |

(単位: 100万人)

出所：UNWTO(国連世界観光機関)「Tourism Highlights 2016 Edition」

## 6 圏域の変化

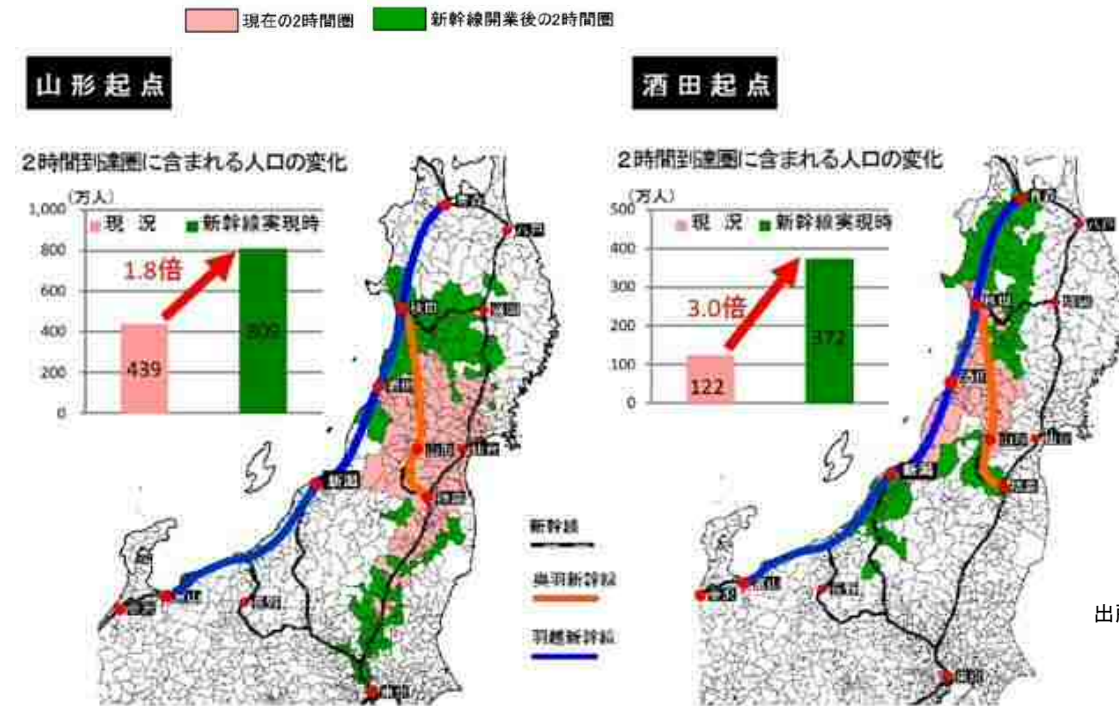
○ICTの進展がもたらす圏域の新たな概念



◇従来の圏域では「実物空間」でのネットワーク化が行われてきたが、現在はこれに加え、「知識・情報空間」によるバーチャルな交流も含めたネットワーク化が進んでいる。

出所：国土交通省「国土のグランドデザイン2050」

○高速交通ネットワークの整備による空間克服(奥羽・羽越新幹線整備の事例)

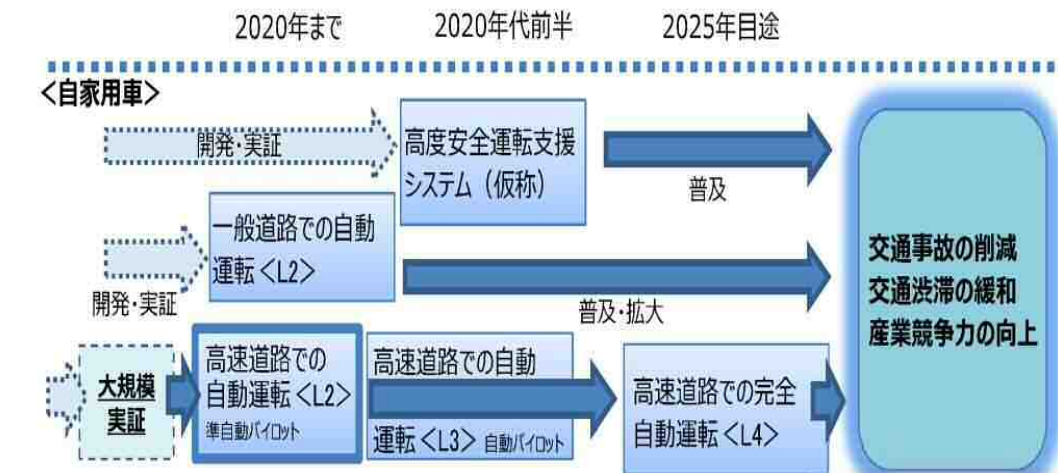


◇今後、奥羽・羽越新幹線が整備されることで、2時間以内に到達できるエリアが格段に広がる。

◇高速交通ネットワークの整備は、人やモノの往来を促進し、交流を増加させる。

出所：山形県「奥羽・羽越新幹線整備推進に向けたワーキングチーム検討のまとめ」

○自動運転自動車の技術開発ロードマップ



◇今後の大規模実証等を経て、2020年代には高速道路や一般道路において段階的に自動運転が普及・拡大していく。

出所：内閣府「官民ITS構想・ロードマップ2017」